B型肝炎・C型肝炎の基礎知識

肝炎とは??

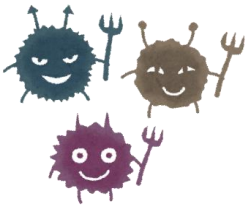
肝炎とは、肝臓の細胞に炎症が起こり、肝細胞が壊される病気です。
肝臓は、消化管から取り込んだ栄養を利用しやすい形に変えたり、毒物を分解したり、体内の物質バランスを維持したりなど、生命を支えるために重要な多くの働きを担っています。

【原因】

ウイルス性、アルコール性、薬物性、自己免疫性など
⇒日本では、肝炎の原因の多くが、B型肝炎ウイルスまたはC型肝炎ウイルスに感染したことによるものです。また、肝がんの約80%はウイルス性肝炎が原因です。

【日本のB型・C型肝炎のキャリア(ウイルス保持者)数と患者数】

	B型	C型
キャリア数(推定)	約110～120万人	約90～130万人
患者数(推定)	約19万人	約30万人



【感染源】

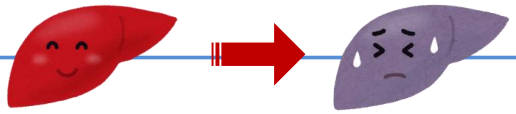
主に血液や体液を介して感染

【感染経路】

・垂直感染⇒母子感染（生まれたときに感染）
・水平感染⇒注射、入れ墨、ピアスの穴あけ、輸血、性交渉、カミソリ等の共有　など

【肝炎の特徴】

肝臓は「沈黙の臓器」



○自覚症状がないことが多く、感染していることを知らない方、知っていても病院に受診されていない方が多くいます。
○本人の自覚なしに感染していることがあります。
○感染に気付かないまま放置すると、肝硬変や肝がんなどの重い肝臓病を発症するリスクが高まります。

検査は採血のみ!!
必ず一度は肝炎ウイルス検査を受けましょう！！

☆感染しているかどうかは、検査を受けないと分かりません。
☆できるだけ早く感染を知り、医療機関で適切な治療を受けることで、肝炎の治癒あるいは肝硬変や肝がんへの悪化を予防することができます。

参考：厚生労働省肝炎対策国民運動事業「知って、肝炎」ホームページ